

洞爺湖温泉小学校 「緑はどうなった？」授業

- ねらい ・有珠山噴火に伴い破壊された森林が、再生されてきたことを理解する。
 ・いろいろな形で様々な種類の植物が侵入し、森林が再生されてきたことを知る。
 ・その森林再生を手助けするため、多様な在来種のタネを採取し、苗を育てる。
 ・将来的には洞爺湖温泉街の遊砂地の緑化に利用する。



第1回 ハルニレのタネを植える

6月23日 快晴 ☀️

授業には全校生徒が参加しました。
 最初に、岡村先生が火山噴火後の森林再生と自然林の意義について説明しました。
 そして、多様な種類の木のタネと苗を観察しました。



次に洞爺湖畔の森林に出かけ、自然の森を観察しました。
 子どもたちは、多様な種類の木や生き物を発見。
 その成長過程について説明を受け、森の再生を学びました。
 今後は、ハルニレの成長を見守りながら緑について理解を深めていきます。(秋には第2回を予定)



ハルニレのタネまき

(今回は事前に採取したタネを使用)

土を入れる



タネまき



碎石で抑える



水やり



協力

おかむら としくに
岡村 俊邦 教授

北海道工業大学 環境デザイン学科



経緯

2000年有珠山噴火後、噴火の経験を次世代に伝え、将来の防災や環境保全、地域の発展に生かすことを目的とした様々な取り組みが行われてきました。その中で、教育関係者を含む地域の方々と火山や砂防の研究者、さらに行政との連携が進んでいます。

「緑はどうなった？」授業は、この噴火がつかない連携を生かした環境防災教育の一環として始まりました。



第2回 たくさんの種類のタネを探す

9月29日 快晴 ☀️

この日は、まず湖畔の森林に木のタネを探しに行きました。トチノキ・オニグルミ・ミズナラ・ヤマモミジ・センノキイタヤカエデなど、春より多くのタネを見つけることができました。



左から、トチノキ、ミズナラ、イタヤカエデ、センノキ



ミズナラの選別。
水に浮くものは、虫が食っている証拠。また、カサ（帽子）がついたまま落ちているタネはまだ若いため、芽がでない。

見つけたタネを持ち帰り、選別。

タネまきでは、タネの大きさによって方法が変わることを学びました。

子どもたちは、この小さな堅い実から大きな木になるのだろうか？と半信半疑の様子。

さらに、岡村先生から“タネたち”は雪の下で冬を越すのだということを教わり、心配しながらも、小さな植物の生命力の強さを感じ取っていました。森林再生のささやかなお手伝いをきっかけに、自然を理解し共生する心を育ててほしいと思います。



ハルニレの成長日記



6月23日 タネまき直後



7月4日（11日後）



9月29日（約3ヵ月後）

芽が出た！

大きくなったよ



先生のおもい

2000年有珠山噴火による泥流被害で、洞爺湖温泉小学校は校舎の移転を余儀なくされました。また、自宅にも被害が及び転居せざるを得なかった子どもたちもいます。

有珠山は噴火で地域に多大な影響を及ぼしましたが、同時に自らも傷つけます。しかし、その度に自分でよみがえる「強さ」を発揮し、再生してきました。

有珠山の自然を学ぶことで、「緑の再生」という夢のあるテーマを子どもたちに伝えたいのです。

主催：虻田町立洞爺湖温泉小学校

NPO法人 環境防災総合政策研究機構

協力：北海道工業大学環境デザイン学科

岡村俊邦教授

国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

北海道室蘭土木現業所洞爺出張所

（株）森林環境リアライズ

2005年12月1日発行

編集・発行 / NPO法人

環境防災総合政策研究機構 (CeMI)

〒060-0001 札幌市中央区北1条西8丁目

日宝大通ビル8階

.(011)271-2663

